

第2回 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略 市民懇談会 議事要旨

◆日時 平成28年2月15日（月） 午後7時00分～午後8時15分

◆会場 南あわじ市広田公民館3階大ホール

◆出席者 産官学勤労言等各種団体：23名

参加者は、別紙「出席者名簿」を参照

陪席者：3名

南あわじ市議会議員（1名）、総合計画審議会委員（1名）、随行者（1名）

まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部：14名

市長、副市長（2名）、教育長及び部長級職員（10名）

事務局：4名

企画部ふるさと創生課長及び担当（3名）

事業者：2名（まち・ひと・しごと創生総合戦略策定支援業務受託者）

◆会議の概要

1. 開 会 事務局から開会の言葉

2. あいさつ 総合戦略推進本部長（南あわじ市長）よりあいさつ

- 皆様のご理解ご協力のもと、検討を進めている。今回の会議ではまち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に対して質疑及び協議頂き、まとめていきたいと考えている。

3. まち・ひと・しごと創生総合戦略【案】について

1) 人口ビジョンについて

2) 地域創生総合戦略の概要について

- 総合戦略推進本部員（企画部長）より、人口ビジョン及び地域創生総合戦略の概要について、内容説明を行った。

4. 意見及び質疑応答

【参加者から主な質問・意見】

- ・ **社会福祉協議会**：人口ビジョンの中で今後高齢化が進むと想定されており、働く場を確保することが重要である。今回将来の人口を推計する際、働く場については現状のままとして人口推計を行ったのか。

⇒本部員（部長）：人口減少の要因については、社会増減及び自然増減ともに影響がありますが、人口を推計する際は、現在の市の現状を基に数値（出生率や社会増減の割合）の変更で推計を行っております。

また、働く場の確保については、前回も意見として出ており、我々としても必要であると考えています。しかし、施策を実施したからといって簡単に人口が増えていくわけではありません。これまでも市外の企業への訪問を行ったが、淡路島への進出というのは難しい状況のようです。ただし、市としては企業誘致に力を入れたいと考えており、起業についても支援していきたいと考えています。

・ **社会福祉協議会**：新規企業の誘致とともに若者のUターンによる新規事業の実施をバックアップして頂きたいと考えている。

・ **老人クラブ連合会**：昨年の12月に実施した総合計画審議会でご各委員から出された意見については本計画に反映されているのか。

⇒本部員（企画部長）：総合計画は本市の最上位計画となります。そのため、老若男女すべての人をターゲットとしています。

一方で、今回の総合戦略は本市をどのように元気づけようかということを中心に検討しており、交流人口の増加や人口減少の抑制等を目的としています。また、総合戦略ではターゲットを子育て世代や若者としています。そのため、総合計画審議会でご出された意見の中で、子育て世代や若者に該当する意見については反映しています。

・ **老人クラブ連合会**：総合計画審議会と市民懇談会の違いはどのようなところか。

⇒本部員（企画部長）：総合計画審議会については総合計画を審議する場でありませ。総合戦略については、産官学勤労言の関係者から意見をもらうことになっています。そのため、市民懇談会ではそのような立場の方々から総合戦略に関する意見をもらう場となっています。

・ **社会福祉協議会**：人口の減少をなくすということをもとに施策を検討していると思ふが、具体的にどのような施策があるのか。

⇒本部員（企画部長）：人口の減少をなくすということは無理であり、減少を抑制する方向で検討しています。本市では合併以降少子対策事業に力を入れ、子育て世代を応援する事業を実施しており、今年度では保育料無料化事業も実施させていただいております。今回の総合戦略においても、子育て世代が住みたいと思えるような施策、子どもを産みたいと思える施策、若者がU J Iターンしたいと思える施策、交流人口を増加させるための施策について検討し、総合戦略に記載しています。

・ **社会福祉協議会**：出来るだけ人口の減少が抑制されるように市全体として検討してほしい。企画部だけでなく、庁内全体で連携して検討してほしい。

⇒本部員（企画部長）：施策目標及び実施事業については、各部単位で検討しています。

・ **吉備国際大学**：基本目標及び施策目標については、かなり具体的な記載になっており、分かりやすくなっている。

各施策目標を設定する際、どのような観点で取り上げたのかということを知りたい。特に『Ⅱ-13 農畜水産物の高付加価値化』と『Ⅱ-10 農業経営の効率化と農畜水産物の安定的な生産』について教えてほしい。

⇒本部員（農商部長）：農畜水産物すべてにイえることではありますが、単に出荷するだけでは限界があると考えています。今後は6次産業化により付加価値をつけた形で幅広く販売していきたいということで記載しています。すでに、一部実施している部分もありますが、まだまだ拡げていく必要があると認識しています。これによって市内の雇用にもつなげていきたいと考えています。

- ・ **吉備国際大学**：高付加価値化について、具体的にどのような考えがあるのか。
⇒本部員（農商部長）：加工した商品の販売や観光産業との連携による新たな商品開発を想定しています。
- ・ **なでしこ分団**：なでしこ分団には、若い人や島外からの移住者もあり、淡路の魅力を活用していきたいというメンバーが多い。また、総合戦略では、子育て世代に関する施策も多く出ているので、順次実施していけばよい方向に向かうのではないかと考えている。
⇒本部員（企画部長）：アンケート調査からも、関東圏での本市の認知度は4割程度となっています。まずは、南あわじ市を知ってもらうということが重要と考え、「あわじ国」というシティプロモーションとして実施しています。本市のことを「知っていただいて」、「来ていただいて」、その後移住・定住に結びついていけばと考えています。そのため、総合戦略においても検討している状況です。
- ・ **吉備国際大学**：大学生に南あわじ市に居住した感想を聞くと皆素晴らしい場所だと回答しており、3割くらいの学生については、職場があれば南あわじ市で就職したいと考えている。大学生達も、住んでみて南あわじ市の良さを初めて感じているので、「知っていただいて」、「来ていただく」ことが重要である。
また、農業についても支援の仕組みがあればやりたいと考えている学生がいる。そのためにも就農システムについても検討頂きたい。
⇒本部員（農商部長）：農業関係の新規就農について年間150万円を支給するという補助事業を実施しています。また、担い手の確保に向けて、農家に2年間研修するといったことも実施しています。
- ・ **吉備国際大学**：国の新規就農支援に対してプラスαがあればよりよいと思われる。同様の施策は他自治体にもあるため、南あわじ市で農業がしたいと思えるような施策があればよいと考えられる。例えば、市単独で補助金を上乘せするというのも一つの施策ではないか。
⇒本部員（農商部長）：国庫補助以上の上乘せは実施していません。今後の課題であると考えています。
- ・ **淡路瓦工業組合**：田舎暮らしの促進について、市の方で宿泊施設の仕掛けをつくるのはどうか。篠山市で古民家を改修した丸山地区というのがあり、市がホテルとして整備し民間が運営している。不便さを求めてくる人で年間予約が埋まっている状況と聞いている。不便さを仕掛けとして捉えることもできるのではないか。
また、南あわじ市は風光明媚である。借景を活用したPRも有効だと思う。
⇒本部員（企画部長）：ご指摘の通り、空き家の改修等については本市の弱い部分であり、今後強化していこうと考えています。
また、景観の利活用としては、SNS等を活用した市の映像発信等を検討しています。例えば、YMCAの学生に母国の人に通じるような画像を発信してもらえれば交流人口の増にもつながると考えています。
- ・ **水交会**：前回の指摘を踏まえ、水産業について修正頂いており、良かったと思う。

しかし、若者が農業したくても土地がない、漁業権がないといった課題はある。そのため、農畜水産物関連の従事者が安定して稼げる仕組みづくりが必要である。そうでないと一次産業の魅力が伝わらない。また、後継者育成のための支援をより充実していただきたい。

⇒本部員（企画部長）：ご指摘のとおり、現役の一次産業の従事者に安定した収入があれば、後継も出てくると考えられます。本市としても様々な取り組みを実施していますが、納得いくような結果が得られていません。

また、現在島外から地域おこし協力隊員として本市に来てもらっており、その中でも漁業をしたいと考えている人がいます。

・ **老人クラブ連合会**：沼島の地域おこし協力隊に関する記事を見たが、地域おこし協力隊の方が沼島に住み続けることになったそうである。これについては、沼島の人情にほれたということもあるようだが、市全体としてそのようなことがPRできればと思う。本市においては地域創生のスタートラインに立った段階だと思うが、他自治体ではすでに地方創生に関連する取り組みを実施していることもある。このような取り組みの先進地の視察に行き、他地域の良いところを是非とも活用してほしい。

・ **水交会**：今後の市営住宅の整備について教えてほしい。丸山地区においては、住宅地が少ない。そのような地域においても市営住宅の整備を推進してほしい。

⇒本部員（建設部長）：市営住宅については、人口動向や住宅困窮者等を勘案し、住宅マスタープランに基づき整備を進めています。近年では、福良地区、広田地区での建設を進めており、次年度については、西淡地区、三原地区について検討予定としています。

・ **神戸新聞社**：前回出された意見が反映されており、良い計画である。観光等については広域連携が必要であるため、他市や県との連携を推進するということがあってもよいと考えている。

また、南あわじ市の特徴でもある人形浄瑠璃について写真は掲載されているが本文中に文字として掲載されていないため、キーワードとして入れてもよいのではないかと。

⇒本部員（企画部長）：広域連携としては、鳴門の渦潮について世界遺産に向けた検討会（兵庫県、徳島県、淡路三市の連携）が立ち上がるなど、広域連携を行っている事例もあります。

⇒本部員（教育委員会次長）：人形浄瑠璃に関するキーワードについては、加筆等を含め検討させていただきます。

・ **洲本公共職業安定所**：前回発言させていただいた内容が取り入れていただいております、良かったと思っている。

『Ⅲ-1 まちの魅力向上に向けた若者世代への情報発信』について、就労に関する情報発信について全島的に情報発信していただければと思う。また、目標値の設定に関する考えについて教えてほしい。

⇒本部員（企画部長）：情報発信については、ハローワークさんとも協議を行いな

がら進めていけばよいのではないかと考えています。

目標値については、関西圏の大学への配布も踏まえた数値となっています。

4. その他

- 事務局より、今後のスケジュール等について説明を行った。

(2月23日から2週間程度、パブリックコメント実施予定。また、第3回市民懇談会は、3月中旬に開催予定としているものの、3月市議会定例会の開会、年度末ということもあり、開催できない場合には書面での対応とさせて頂くことをご承認いただいた。)

5. 閉 会 総合戦略推進本部副本部長（南あわじ市副市長）よりあいさつ

- 本市の場合は転出超過の影響が大きい。これについては関連する施策を着実に進めていきたいと考えている。また、合計特殊出生率の1.71を2.15にしないと将来人口として提示している31,000人に到達しない。合計特殊出生率を上げるということは、大変難しいことであり、出会いの場の創出も合わせて考えていく必要がある。自分たちのまちをどのようにしていくのか、行政だけではなく市民の皆様方一人ひとりにおいて推進していただければと考えている。

以上